

差出人: HISASHI SHOJI  
送信日時: 2017年7月7日金曜日 18:46  
宛先: Yukiko Shimoyama  
件名: 御礼

下山由紀子 様

ご無沙汰しております。

日本に帰国してから3週間が経ち、ようやく落ち着いて参りました。  
バルセロナ滞在中は本当にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

家内の妊娠・出産、長女の発疹、長男の繰り返す中耳炎および手術、そして帰国直前の水痘発症、私の足底筋膜炎、ほぼ毎月ウチの誰かがお世話になっていたように思います(笑)。

さてこの度、バルセロナに滞在した2年間で日本人医師として感じたバルセロナの医療事情について意見を述べさせていただきます。

在留邦人にとって最も心配なことのひとつとして「現地の医療事情」が挙げられます。しかし、バルセロナでは日本とほぼ同等の医療を受けることができました。日本より優れている点、劣っている点もございましたが、その劣っている点を十分に補っておられるのが下山さんだと思います。

患者診療において最も重要なことは医師と患者のコミュニケーションであります。いくら正しい、最先端の医療を実践しても良好なコミュニケーションがなければ患者は不安に陥ってしまいます。医療通訳では専門的かつ高度な語学力が必要となりますが、下山さんは医師の言っていることを直訳するだけでなく、解り易く、優しく伝えてくれました。医療の知識も豊富であり、医師の説明に疑問があれば、こちらが質問する前にすかさず質問し、解決して頂けました。これは担当医師の欠点でさえも補う下山さんの素晴らしいテクニックであると思います。

また、この症状では〇〇先生、この疾患ではxx先生、などあらゆる診療科の経験豊富な医師と交流があり、安心して受診することができました。こういったことは現地人でも知らない情報であり下山さんの人柄や長年の経験がなければ不可能な対応であると思います。事実、私のスペイン人同僚も下山さんのお世話になり、無事に手術を受けることができました。

バルセロナに在住した観光に訪れる日本人にとって、下山さんほど頼りがいのある方はいません。同じ医療に携わる人間としても、本当に勉強させていただきました。将来、何らかのカタチで一緒にお仕事をさせて頂ける日が来るのを願ってやみません。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

外務省医務官  
小司久志